

令和8年8月6日

令和8年度第5回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

令和8年度第5回教育委員会定例会会議録

日時 令和8年8月6日（木）
10時00分～10時55分

場所 教育委員会室

出席者
地頭所教育長
小屋敷委員
堀江委員
馬場委員
中村委員

（事務局職員）

兼廣副	教	育	長
中島	教育次長	兼生徒指導	総括監
山本	総務	福利課	長
足田	義務	教育課	長
岩元	文化	財課	長
山田	総務	福利課	企画監
福重	高校	教育課	指導監
宮永	高校	教育課	参事
森田	総務	福利課	長補佐
岡村	学校	施設課	長補佐
小路口	東京事務所	第五課	長

議決事項

件 名	提 案 理 由	審議の状況	採決の次第
議案第 1 号 令和 8 年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）の決定について	令和 8 年度の地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）を決定しようとするものである。	特 記 事 項 な し	決 定
議案第 2 号 予算外議案の作成に関する知事への意見申出について	曾於地区特別支援学校(仮称)新設工事（管理棟外・建築、債務）に係る請負契約を締結しようとする議案について、知事に意見を申し出ようとするものである。	特 記 事 項 な し	決 定
議案第 3 号 予算外議案の作成に関する知事への意見申出について	中種子特別支援学校校舎改築（2 期）工事（食堂棟、債務）に係る請負契約を締結しようとする議案について、知事に意見を申し出ようとするものである。	特 記 事 項 な し	決 定
議案第 4 号 鹿児島県立博物館協議会委員の任命について	鹿児島県立博物館協議会委員の辞任に伴い、その後任を任命しようとするものである。	特 記 事 項 な し	決 定

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

議案第1号から議案第4号までを非公開で審議する旨教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 令和8年度第4回教育委員会定例会会議録について

令和8年度第4回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

4 その他

その他(1) 令和8年度全国学力・学習状況調査結果について

— 令和8年度全国学力・学習状況調査結果について —

〈義務教育課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(馬場委員) 児童生徒質問調査の結果について、①から③までの問いは「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合算しており、それ以外の質問については「当てはまる」だけを集計した数値となっているが、どのような趣旨で区別しているのか。

(義務教育課長) 毎年度、提示する資料はこの形式で示しており、継続的に同様の取扱いをしていると理解している。11月に提示予定の詳細な分析においては、鹿児島の特徴がよく分かるように「4件法」の強肯定のみを抽出するのか、肯定の上位2つを合算して示すのかを検討したい。

(馬場委員) 文部科学省の質問調査内容を確認したところ「1 当てはまる」「2 どちらかといえば当てはまる」「3 どちらかといえば当てはまらない」「4 当てはまらない」の4択であり、1と2が肯定、3と4が否定の選択肢であった。1と2を合算した方が、より現状を把握できるのではないかと考える。
今回の資料で、自己有用感等に関する項目が顕著に低いとされているが、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合計するとどの程度の割合になるのか。⑩と⑪の質問について教えてほしい。

(義務教育課長) ⑩「自分には、よいところがあると思う。」の肯定回答を合算すると、小学校は本県83.2%、全国85.6%、中学校は本県83.1%、全国84.0%である。⑪「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」は、小学校は本県90.3%、全国91.4%、中学校は本県89.9%、全国90.9%である。

(馬場委員) 全国より数値はやや少ないものの、子供たちの自己有用感と思

ったよりも高いと感じた。「学校に行くのが楽しい」という質問の数値が高いのも良い結果だと思う。

(小屋敷委員) 毎年調査結果を分析し、市町村や学校にも詳細な結果は伝えられていると思うが、改善は容易ではないと思う。

⑩、⑪の自己有用感等に関する問いは全国に比べて低いのに対し、⑭の学校における学習環境（ICT活用等を含む）の状況は本県が高い。また、⑯の授業以外の読書の時間、⑰の学習時間も長い。自己有用感以外のやる気や主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びは本県でも取り組まれていると思う。今後も今まで取り組んできたことの効果や改善点を踏まえて、学校等にお伝えいただきたい。

(義務教育課長) すぐには数値の改善が見られないが、例えば今年度の国の報告書でも、学力と強く相関するのは「自分にはよいところがあると思う」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」とされている。それ以外にも「心理的安全性が確保されているか」「授業内で意見を言っても否定されない雰囲気があるか」など様々な要素をクロス集計し、単に「自分には、よいところがあると思う。」という質問の数値のみを注視せず、他の要素との相関を比較しながら分析している。県としてもそのような視点での分析を情報発信し、授業改善や教育環境改善を図っていけるように、指導助言をしていきたいと考えている。

(中村委員) 児童生徒質問調査の「算数（数学）の授業の内容はよく分かる」は、中学校は全国の56.1%に対して、本県が56.7%と高い。この結果から、授業の内容は理解ができていると理解した。一方、学力調査の結果は、特に全国の折れ線グラフと鹿児島県の棒グラフの比較において、正答数の多い層が極端に少ない。授業内容のレベルは理解できるが、調査で点数は取れないということは、授業で難易度が高い問題に取り組まない限りは、高い点数も取れないのではないだろうか。授業で取り組んでいなければ調査では答えられないと思う。既に分析等されていると思うが、この点についてどのように考え、上位層を引き上げていくかについて、議論等されていれば教えていただきたい。

(義務教育課長) 中学校数学の問題別正答率を見ると、基礎・基本の簡単な問題の正答率は全国と遜色ないが、筋道を立てて思考が必要な問題で、全国との差が大きく、正答率が低い状況であった。県教委では、特に中学校の数学は、例年の傾向として下位層が多いため、基礎・基本を徹底して下位層を引き上げていくような指導助言をしていた。基礎・基本の徹底は、単なる四則演算ドリル学習をしっかりとやるということではなく、思考を伴う学習活動を充実させなければ全体は上がっていかないと考えている。どのような授業を展開している場合に、児童生徒が分かると考えているのかということも含めて、質問調査で「授業がよく分かる」と答えた生徒の成績や問題別相関を分析し、どのような問題が解けるようになると全体の成績が上がっていくのか

について発信していきたいと考えている。

(堀江委員) 資料5-5ページにおいて、国語、算数、英語いずれも上位層が少ないという結果が出ている。下位層の引き上げも課題であるが、上位層が少ない点に関する分析や今後の対策はどう考えているか。

(義務教育課長) 現在、文部科学省より合計値や平均値は届いているが、個別生徒の回答傾向は分からないため、今後、上位層の児童生徒がどのような問題に弱いかということも含めて、より詳細な分析をしていきたいと考えている。

上位層、下位層いずれにおいても、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが重要であると考えている。全てを子供たちに委ねて、自由に学習をさせるわけではなく、教師が様々な教具を教室の中に用意して、個々の能力や進度に応じた自由な選択ができる環境を整え、放任ではない個別最適な学習を提供していくことが必要だと考えている。

県教委としては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実についても発信しながら、県内の学校において授業改善が図られるように、指導助言していきたいと考えている。

(堀江委員) ICTを活用した個別最適な学びやキーワードである「主体的・対話的で深い学び」は大事にされていると思うので、今後もよろしくお願いいたします。

〈質疑終了〉

その他(2) 令和9年3月県内公立及び国立中学校等卒業予定者の進路希望状況調査について

- ー 令和9年3月県内公立及び国立中学校等卒業予定者の進路希望状況調査について ー

〈高校教育課参事が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(小屋敷委員) 中学校卒業者の進路は非常に影響が大きいと思う。生徒数が年々減少していく中で、公立高校希望者のみ増加するのは変な話であり、私学や県外進学を含めて、バランス良く本人たちの希望が叶うのが望ましい。しかしながら、例年、公立高校の希望者が減少しているのは寂しいことだと感じている。

今回、普通科の比率が少し増加し、専門学校が減少したという説明であったが、専門学科の中で看護科だけがプラスに転じている。このことについて、県としてはどのように把握しているか。

(高校教育課参事) 今年度は野田女子高校の入学生がゼロであった。この状況を受け、同校では新たに2種類のリーフレットを作成するなど広報

活動の充実に努め、衛生看護科の希望者数が20人増加した。県教委としても野田女子高校を「地域を担う次世代人材育成プロジェクト」の指定校とし、地元と連携した地域課題の解決を目指す探究学習等を推進している。また、小中学校への出前授業も実施しており、今年度に入ってから看護学科の希望者増につながっている。

一方で、奄美高校は、昨年度より減少しているが、2校合計では増加している。

(小屋敷委員) 生徒の地域との関わりや学校の広報活動の充実で希望者が増えたようだが、他の専門学科の学校でも、広報活動や地域と密着した取組を実施しているので、少しでも浸透していくことを願っている。

近年、高校生が主体的に地域と関わり、情報発信をしたり、イベントを行ったり、学校の枠を超えて連携して取り組む活動が増えてきたと感じている。そのように公立高校の広域化や魅力発信が広がることを期待する。

魅力ある学校づくりは非常に大切なことだが、学校だけの努力では厳しい面もある。共学化や学校の再編、制服の見直しなどで、若干希望は変動するだろうが限界がある。県としても、公立高校等への支援をより充実させていただきたい。

生徒数減少の中で、公立高校への進学希望は減少したが、私学等への進学希望は、逆に同程度増加している現状がある。通学手段が大きな要因だと思う。他県では私学と連携し、私学の通学バスを利用できる取組を実施していると聞いた。県としても通学手段を支援する取組を今後考えていただきたい。

通学支援については、現在、補助事業を行っているとのことだが、今後の方向性としてはいかがか。

(高校教育課参事) 高校生の通学への対応については、高校生を含めた地域住民の交通手段の確保の観点から、地域の公共交通全体の中で検討していく必要がある課題だと考えている。県教委では、高校生通学支援事業を実施し、地域の公共交通に関する会議等にも参画している。また、県立高校の将来ビジョン検討委員会の答申においても、高校生の通学支援に関して御意見いただいたところである。今年度、県立高校の将来ビジョンを策定予定だが、通学手段がないことを理由に学びを諦めることがないように方策等を検討したい。

〈質疑終了〉

その他(3) 令和9年度県立高等学校・県立特別支援学校使用教科書の採択について(書面報告)

- － 令和9年度県立高等学校・県立特別支援学校使用教科書の採択一覧について －

〈質疑なし〉

- 5 議案
議案第 1 号 令和 8 年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）の決定について
（非公開）
- 議案第 2 号 予算外議案の作成に関する知事への意見申出について
（非公開）
- 議案第 3 号 予算外議案の作成に関する知事への意見申出について
（非公開）
- 議案第 4 号 鹿児島県立博物館協議会委員の任命について
（非公開）
- 6 閉会